

考えられた。シンチ上, Moderate, Severe としたものは全て10万 cpm 以下であり, 膵外分泌能低下と診断しうると考えられた。

33. 膵シンチの検討

—ERCP との 対比—

堀田 彰一	塚越 洋元
久保 光正	八百坂 進
須賀 俊博	三和 公明
和田 俊彦	村島 義男

(札幌厚生病院・消)

鈴木 順一	若林 裕宏
中村 孝行	

(斗南病院・RI 室)

膵の放射線学的検査は, 種々のものがあるが, スクリーニング検査としては, 従来より, 膵 Scinti-

graphy が広く行なわれているが, 近年内視鏡的逆行性膵胆管造影 (ERCP) が施行されている。

今回, われわれは, 膵 Scintigraphy と ERCP を施行した84症例 (内, 慢性膵炎39例, 膵癌6例) について比較検討した。膵 Scintigraphy を, 正常, 軽度摂取低下, 中等度摂取低下, 高度摂取低下, 限局性欠損の5型に分け, ERCP を, 正常, 軽度異常, 中等度異常, 高度異常, 閉塞の5型に分類し, 84症例について検討した。膵 Scintigraphy は, 読影上種々の問題点があるが, ERCP の変化と Scintigraphy の所見とは, 高い相関傾向を認め, 慢性膵炎と膵癌との鑑別診断が困難な症例もあるが, 高度慢性膵炎および膵癌では, 全例 Scintigraphy で異常を認め, スクリーニング検査として, 患者への侵襲が少ない点からも, 有力な検査と思われる。今後さらに, 症例を重ね検討を加えたい。